

高等部



I 高等部3年グループの実践事例

(1) 対象生徒と段階、年間目標等の設定

生徒名	年間目標（国語科で目指す資質・能力）	国語科の段階・目標・主な内容
3年 KK 男子	・相手の話に興味や関心をもって聞き、話の大体の内容を整理したりまとめたりして友達と伝え合い、伝え合ったことを通して自分の考えや感想をもつ。	中1段階、目標ア 知・技イ(ア)、 思判表 ア
3年 SK 男子	・相手の話に興味や関心をもって聞き、話の大体の内容を整理したりまとめたりして友達と伝え合い、伝え合ったことを通して自分の考えや感想をもつ。	中2段階、目標ア 知・技イ(ア)、 思判表 ア
3年 SN 女子	・相手の話に興味や関心をもって聞き、話の大体の内容を整理したりまとめたりして友達と伝え合う。	中1段階、目標ア 知・技イ(ア)、 思判表 ア

(2) 教科等横断的な視点に基づく指導計画の作成

各教科等	題材名（指導内容）
国語	「相手の話を聞き取ろう③～せんぼくいきいき5デイズの成功に向けて～」(順序や理由を表す言葉、聞き取り、メモの取り方)
総合的な 探究の時間	「ふるさと発信④～せんぼくいきいき5デイズ～」 (販売、太鼓演奏、宣伝、武家屋敷ナビゲーター)
観光	「仙北市の魅力を発信しよう②」(地域での宣伝、販売)
作業学習	「各販売会に向けて」(接客の基本、質問、相談)
職業	「実習Ⅱ期に向けて」(実習事前学習、実習事後学習)
生活単元学習	「目指せ！B1グランプリ」(話し合い、地域の方からの評価)
特別活動	委員会活動(質問)
自立活動	「自立活動」(コミュニケーション)

(3) 重点事項に基づく国語科の指導の授業づくり・授業実践

① 題材名

「相手の話を聞き取ろう③～せんぼくいきいき5デイズの成功に向けて～」(計8時間)

② 題材目標(全体目標)

ア 順序や理由を表すときに使う言葉が分かる。(知・技)

イ 相手の話で分からない事柄には質問しながら、話の大体を聞き取る。(思判表)

ウ 相手の話に関心をもち、分かったことを基に自分の考えをもつ。(学・人)

③ 題材設定理由

本グループの生徒3名は、話をすることが好きで、友達や教師との関わりを楽しんでいる。一方で、自分の興味のあることを一方的に話したり、興味のない話や数分以上の話になると、相手の話に集中できなくなったりするなど「聞くこと」に関して課題がある。

本題材は、下級生向けに「攻略本・動画～せんぼくいきいき5デイズ成功への道～」を作成する学習に生かすことを目的としている。実際に経験した高等部の行事「せんぼくいきいき5デイズ」を題材とするため、学習へのイメージをもちやすく、興味・関心をもって取り組めると考える。また、来年の「せんぼくいきいき5デイズ」をよりよい行事にするために必要な情報を聞き取り、改善につなげることは、卒業を前に上級生としての役割を果たすという自己有用感を感じながら、意欲的に取り組める内容であると考え。さらに、話の大体を捉える力は、卒業後の社会生活や生活の様々な場面で生かせると考え、本題材を設定した。

※せんぼくいきいき5デイズ・・・全校児童生徒が地域で、小学部が宣伝活動、中学部が作業学習の紹介と製品販売、高等部が太鼓演奏や作業学習製品販売、宣伝、武家屋敷の案内をする行事で、10月の観光シーズンに合わせて5日間行う。生徒も実行委員として計画等をしている。

④ 単元の個人目標

生徒名	観点	個人目標	評価	国語科の段階・目標・内容
3年 KK 男子	知・技	・順序や理由を表す様々な言葉が分かる。	○	中1段階、目標ア 知・技イ(ア)、 思判表 ア
	思判表	・情報で抜けているところがあれば質問をして、話の大体を聞き取る。	○	
	学・人	・関心をもって相手の話を聞き、分かったことを基に自分の考えをもつ。	◎	
3年 SK 男子	知・技	・順番や理由を表す様々な言葉が分かる。	○	中2段階、目標ア 知・技イ(ア)、 思判表 ア
	思判表	・情報で抜けているところがあれば質問して、話の大体を聞き取る。	○	
	学・人	・関心をもって相手の話を聞き、分かったことを基に自分の考えをもつ。	△	
3年 SN 女子	知・技	・順序や理由を表す言葉が分かる。	○	中1段階、目標ア 知・技イ(ア)、 思判表 ア
	思判表	・話し手の話から、話の大体を聞き取る。	○	
	学・人	・関心をもって相手の話を聞く。	○	

◎：完全に達成しており、生活や学習の中で関連する行動が観察される。
○：ほぼ達成しており、生活や学習の中で概ね関連する行動が観察される。
△：一部達成している。まだ支援を要する。

④ 授業づくりの重点事項の有効性及び単元における生徒の変容

ア 具体的に考える場面の設定

(ア) 分類表の活用

本題材の中で作成した分類表(写真1)を毎回提示し、ワークシートに順序や理由を表す言葉を予想して記入したり、それらの言葉を使ってクイズ(写真2)を作ったり答えたりする活動を設定した。分類表を活用することで、「まず」「理由は」等を用いて言葉について、どの生徒も正しく答えるなど、順序や理由を表す言葉の理解につながった。



写真1 分類表の提示



写真2 聞き取りクイズ

(イ) クイズによる演習

展開時に、先生からせんぼくいきいき5デイズの改善案に関わる情報を聞き取り、その情報をもとにしたクイズを考えて友達に出題したり、友達のクイズに回答したりする

場面を設定した。特に、SKやKKはクイズに回答する目的意識をもち、順序や理由を表す言葉に注意して聞くことができ、物事の順序や理由を知ることができた。

イ めあてとまとめの工夫

(ア) 学習課題を考える場面の設定

「理由を聞き取るためには、どんな言葉に注意して聞くとよいだろうか」など、学習課題について個別に考えたり、自分の考え(「ので」「だから」に注意して聞く)などをミニホワイトボード(写真3)に書いたりする時間を設定したことで、一人一人が学習課題などについて主体的に考え、表現することができるようになった。



写真3 自分の考えが書かれたミニホワイトボード

⑤ 授業者の課題・改善案

ア 具体的に考える場面の設定と工夫

(ア) 物事の順序や理由の重要性が分かる指導計画

社会生活や職業生活における物事の順序や理由の重要性については、題材の最後に説明する形にとどまってしまう。特に職業生活において説明や指示に関わる理由を理解することは、優先順位を考えたり、責任をもって職務を遂行したりすることにつながる。本単元における学びが職業生活にどうつながっていくかが分かるような指導計画の設定が必要であった。

(イ) 「聞くこと」に重点を置いた活動の設定

「聞くこと」に関する力を身に付けるための題材であったが、自分の考えを書く、学習担当の教師から話を聞き取りながらメモを取る(書く)、クイズを考えて書くなど、書く活動が多い題材となってしまった。必要に応じて、書かずに考えを話したり、教師が書いたりするなど、「聞く」力を身に付けるための活動内容を吟味する必要がある。

(4) 他の学習場面における学んだことの活用

① 指導の形態・学年・対象生徒・単元名(計121時間)

- ・総合的な探究の時間・高等部・全員・「ふるさと発信④～せんぼくいきいき5デイズ～」(計30時間)
- ・観光・高等部3年・全員・「仙北市の魅力を発信しよう②」(計17時間)
- ・職業・作業学習・高等部3年・全員・「実習Ⅱ期」(計74時間)

② 関連する国語科の年間目標

KK…相手の話に興味や関心をもって聞き、話の大体の内容を整理したりまとめたりして友達と伝え合い、伝え合ったことを通して自分の考えや感想をもつ。(中学部1段階、目標ア、内容ア、イ(ア))

SK…相手の話に興味や関心をもって聞き、話の大体の内容を整理したりまとめたりして友達と伝え合い、伝え合ったことを通して自分の考えや感想をもつ。(中学部2段階、目標ア、内容ア、イ(ア))

SN…相手の話に興味や関心をもって聞き、話の大体の内容を整理したりまとめたりして友達と伝え合う。(中学部1段階、目標ア、内容ア、イ(ア))

③ 指導の手立てと対象生徒の様子

ア せんぼくいきいき5デイズでの意欲的な姿

SN…本題材の序盤は、せんぼくいきいき5デイズで準備する物や気を付けることについての聞き取りをした。聞き取るポイントに気を付け、準備するイメージがつきやすか

ったことで、集団での活動が苦手な SN が同じ活動の生徒と協力して意欲的に物を準備したり、活動に取り組んだりする姿が見られた。

イ 攻略本・動画の台本制作

SK、KK…攻略本・動画の制作のための台本作りでは、本題材で聞き取った内容をもとに、一人一人が本に書いたり動画で話したりする内容を考えた。3名とも文章を書くことに苦手意識があったが、台本作りでは聞き取った内容をもとにすらすらと文章を書くことができた。SK や KK は、理由を伝えることの大切さに気付き、自分から「なぜか」というと」「なぜなら」など理由を表す言葉を使って台本を作ることができた。

ウ 地元実習での指示理解

SK…メモを取りながら聞き取る活動を繰り返し行ったことで、地元実習で初めて取り組む仕事でもメモを取りながら仕事内容を聞き取ることができた。実習先の方から、「1度教えたことをよく覚えていて、仕事に取り組んでいる」という評価をいただいた。

④ 授業者の課題・改善案

ア 地元実習でのコミュニケーション

SK、SN…地元実習では仕事の聞き取りができた半面、昼休みなど休憩時間のコミュニケーションに課題のある生徒である。前題材で学習した「返事をする」「相づちを打つ」など継続した指導が必要であった。

2 高等部1・2年グループの実践事例

(1) 対象生徒と段階、年間目標等の設定

生徒名	年間目標（国語科で目指す資質・能力）	国語科の段階・目標・主な内容
1年 KM 男子	①書き順や字形に気を付けて、身近な漢字を丁寧に書く。	中1段階、目標ア知・技ウ（ウ）ア
	②レシピや説明文などを読み、大まかな内容をとらえる。	中1段階、目標イ思判表 C イ
1年 SY 男子	①調理や服薬の説明書などを読み、内容を理解する。	小3段階、目標イ思判表 C ウ
	②経験したことや感想などを50語文程度の文章で表す。	小3段階、目標イ思判表 B ウ
1年 TM 女子	①身近な漢字や片仮名を文字の形に注意して、丁寧に書く。	小2段階、目標ア知・技イ（ウ）イ
	②広告やレシピなどを読み、書かれている内容を知る。	小2段階、目標ア思判表 C ウ
1年 MH 男子	①経験したことについて、感想などを入れて文章を書く。	小3段階、目標イ思判表 B ウ
	②簡単な文章を読み、大まかな内容を読み取る。	小3段階、目標イ思判表 C イ
2年 TT 男子	①小説などの文章を読み、内容を理解する。	小3段階、目標イ思判表 C イ
	②経験したことや感想などを二語文などの簡単な文章で表す。	小3段階、目標イ思判表 B ウ

(2) 教科等横断的な視点に基づく指導計画の作成

各教科等	単元名（指導内容）★イニシャルは児童名、番号①②は育成したい年間目標を示す。
国語	・分かりやすく伝えよう①、②…①SY、TT ②KM、TM、MH ・文を作ろう…①KM、TM、MH、②SY、TT
生活単元学習	・みんなでチャレンジ～神代こども園との交流① 太鼓の叩き方を教えよう～ ①SY ②KM、TM、MH
観光	・城下町角館の歴史を知ろう～武家屋敷案内をしよう～ ①SY、MH ②KM、TM
せんぼくいきいき5デイズ	・宣伝活動 ・観光案内

(3) 重点事項に基づく教科別の指導の授業づくり・授業実践

① 題材名「分かりやすく伝えよう① ～武家屋敷案内に向けて～」(計6時間)

② 題材目標 (全体目標)

ア 武家屋敷の案内に出てくる言葉には、位置や場所などを示すものが多いことに気付く。

(知・技)

イ 武家屋敷案内に出てくる位置や場所を表す言葉の意味が分かり、指さしたり、単語で答えたりする。(思判表)

ウ 生活の中で位置や場所を示す言葉を使って、相手に分かりやすく伝えようとする。(学・人)

③ 題材設定理由

本グループの生徒たちは、様々な友達や教師と楽しく会話することができるが、いろいろな場面に応じた話し方に自信がなく、うまく話せなかったり、無口になったりする様子が見られる。そこで、いろいろな場面での話し方について実践を通して身に付けられるよう「分かりやすく伝えよう」という単元を設定した。

本題材は、大曲支援学校高等部1年生との交流での武家屋敷案内のために、分かりやすい表現をしようと「左右」や「つきあたり」などの位置を表す言葉を使った表現や「こそあど言葉」が示すものについて知る学習である。本題材で学習した内容を基に、観光科の学習と関連付け、武家屋敷案内の原稿作りに生かす。

④ 題材の個人目標

生徒名	観点	個人目標	評価	国語科の段階・目標・主な内容
1年 KM 男子	知・技	・武家屋敷案内の原稿に書かれている位置や場所を示す言葉から大まかな内容を読み取る。	○	中1段階、目標イ 思判表Cイ
	思判表	・位置や場所を示す言葉を使って、相手に分かりやすく説明する。	○	
	学・人	・生活の中で位置や場所を表す言葉を活用し、相手に伝える。	○	
1年 SY 男子	知・技	・前後、左右、つきあたりなどの武家屋敷案内に必要な表現を知る。	○	小3段階、目標イ 思判表Cウ
	思判表	・位置を表す言葉や場所が表す言葉が示すものを指差しや言葉で表現する。	△	
	学・人	・位置を表す言葉や場所を示す言葉を使って、相手に伝えようとする。	△	

1年 TM 女子	知・技	・前後、左右、つきあたりなどの武家屋敷案内に必要な表現を知る。	○	小2段階、目標ア 思判表Cウ
	思判表	・位置や場所を表す言葉が示すものを指差して伝える。	△	
	学・人	・位置や場所を示す言葉を指差して表現するなどして、生活の中で活用しようとする。	△	
1年 MH 男子	知・技	・武家屋敷案内の原稿に書かれている位置や場所を示す言葉から大まかな内容を読み取る。	○	小3段階、目標イ 思判表Cイ
	思判表	・位置を表す言葉や場所を表す言葉が示すものについて、単語で答える。	○	
	学・人	・生活の中で、位置や場所を表す言葉を使って、相手に伝えようとする。	○	
2年 TT 男子	知・技	・前後、左右、つきあたりなどの表現を覚える。	△	小3段階、目標イ 思判表Cウ
	思判表	・位置を表す言葉やこそあど言葉が示すものが分かり、単語で答える。	○	
	学・人	・生活の中で、位置や場所を表す言葉を使って、相手に伝えようとする。	○	
<p>◎：完全に達成しており、生活や学習の中で関連する行動が観察される。 ○：ほぼ達成しており、生活や学習の中で概ね関連する行動が観察される。 △：一部達成している。まだ支援を要する。</p>				

⑤ 授業づくりの重点事項の有効性及び単元における児童生徒の変容

ア 具体的に考える場面の設定と工夫

(ア) 電子黒板の活用

電子黒板に写された原稿(写真4)を見ながら、自分たちで「こそあど言葉」を探し、「こそあど言葉」が示す内容について生徒が実際に電子ペンを用いて原稿に線を引いたり、消したり、書き直したりした。電子黒板に直接書き合うことは、共通理解が図りやすく、何度も消したり書いたりして考えを深める助けとなった。

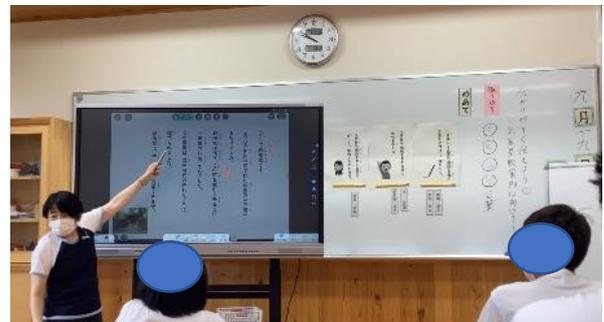


写真4 学習内容を共有するICT活用

(イ) 観光案内を想定した言葉の活用

観光案内の際に使用する言葉として、「右や左」、「つきあたり」、「あちら」、「こちら」など方向や位置を表す言葉を取り上げ、校内で実際に模擬練習をしたことで、それらの言葉を使って案内ができるようになった。また、お客さんから見て右手の方向は右を表し、左手の方向は左を表していることに気付く生徒もいた。



写真5 個人に合った学習目標

イ めあてとまとめの工夫

(ア) 実態に応じた目標の設定

本グループは実態差が大きいために、授業での目標を実態に応じた3つに提示し、自分で目標を選択できるようにした(写真5)。自分で

きそうな目標を選ぶよう促すことで、自己有用感を得られた。

⑥ 授業者の課題・改善案

ア 具体的に考える場面の設定と工夫

(ア) 卒業後の生活に生きる題材設定

本題材では、生徒一人一人の実態に合った身に付けさせたい力を踏まえ、他教科との関連を意識して興味関心がもてるような内容を取り上げ、授業づくりを行った。高等部では卒業後の生活に生かせるように国語科の内容を精選して実践することが重要である。実態をよりの確に把握し、卒業を見据えた個々の資質・能力の育成を目指した題材を設定したい。

(4) 他の学習場面における学んだことの活用

① 指導の形態・学年・対象生徒・単元名

- ・観光・1年 MH・「本校の高等部1年生との交流」(計16時間)
- ・総合的な学習の時間「せんぼくいきいき5デイズ」(計30時間)

② 関連する国語科の年間目標

簡単な文章を読み、大まかな内容を読み取る。小3段階、目標イ、思判表Cイ

③ 指導の手立てと対象生徒の様子

ア 分かりやすい原稿作り

武家屋敷案内について、相手に分かりやすく説明できるように学級全員で原稿を検討した。文章を短く、具体的に表現することで内容を把握することができ、実際の武家屋敷案内でも原稿を読むだけでなく、自信をもって、位置や場所を表す言葉を使って相手に案内することができた。

イ 役割の理解

せんぼくいきいき5デイズでは、太鼓演奏、作業学習製品販売、宣伝、武家屋敷案内の4つのグループに分かれて活動を行った。MHは、本校の高等部1年生との交流の際、武家屋敷を案内した経験をもとに、自信を深め、地図を使って観光客に説明したり、位置を表す言葉を使ってトイレの場所を案内したりすることができた。

④ 授業者の課題・改善案

ア 各教科等を合わせた指導への般化

「位置や場所を示す言葉」など国語科で取り上げた内容を学校生活の中で何度も活用し、定着を図ることが般化につながっていく。学部で確認した高等部の目指す姿を基に、いろいろな場面において、意図的に国語科の学習内容を取り入れていく必要があった。

イ 社会人から学ぶ機会の設定

国語科で学んだ内容を合わせた指導で深めることも大切と考える。観光科の授業の中で、地元のボランティアガイドの方などから案内をする際のポイントを学んだり、実際の案内の仕方について助言を受けたりするなど、社会人から学ぶ機会を設定したい。

3 まとめ

(1) 成果

① 他の教科等との関連付け

次年度に向けたせんぼくいきいき5デイズの改善を国語科の題材に関連するテーマとして取り扱うなど、観光や総合的な探究の時間等と関連付けて、国語科の年間単元(題材)を設定することができた。国語科の単元(題材)で学んだ内容を他の学習場面で活用するよう計画することで、学ぶ目的が明確になり、生徒の学習意欲の向上や学習の必要感につながった。また、学習内容を繰り返し使うことで生徒の学習内容の定着を図ったり、教員の手立て

の評価・改善に役立てたりすることができた。今後は国語科の学習内容や目的を明確にして職員間で共通理解し、より広い場面で活用して般化を促す必要がある。

② 身に付けたい力の焦点化

今年度の国語科の学習グループは実態差の大きい集団であり、集団としての目標が焦点化しづらく、単元・題材の設定や授業づくりが難しい状況にあった。そこで高等部では、卒業後の生活を見据えて「高等部『国語科』の指導概念図」（次ページ資料6参照）を作成し、高等部の国語で身に付けたい力を「相手の思いや考えを聞いて理解し、自分の思いや考えを深め、言葉を適切に用いて表現する力（＝伝え合う力）」として、指導計画の作成に取り組んだ。目標が焦点化され、教員にとって単元・題材の設定や授業づくりがしやすくなり、生徒の伝え合う力の育成の一助となった。

（2）課題・改善案

① 生徒一人一人の目標達成に迫る手立ての充実及び指導内容の定着

国語科の個別目標を設定したが、生徒一人一人に着目すると目標達成や指導内容の定着が不十分なケースもあった。生徒一人一人の実態や特性に応じた目標達成に迫る手立てを講じ、定着につなげることが課題である。改善案として、卒業後の生活を見据えて個々の年間目標や単元（題材）目標を精選すること、生徒の学習状況や目的を踏まえて学習グループを構成し、必要な教員を配置すること、生徒の反応を予測した授業づくりを進め、生徒一人一人に合った手立てを準備することなどが挙げられる。また、前述したように指導内容の定着のためには各教科等を合わせた指導等で学習経験を拡充することも必要となる。